

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (3)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成			(2)授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (4)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が指導案を作成し公開授業を行う。 ・スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。 ・全国学力学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。 ・ICT活用の授業作りに努める。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・シラバスを活用し、適切に評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上を目指す。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85%以上になる。 ・わかりやすい工夫した授業を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすく教え方を工夫している」と受け止める生徒は92.4%と高率であるが、反面「授業はわかりやすく楽しい」とした回答は目標値に6P届いていない。(74.1%) ・「評価の仕方を説明し、学習の効果を適切に評価している」との回答は目標値を上回っておりしらすのを用いた効果が認められる。(90.8%) ・週末課題を事前に知らせることにより、家庭学習の習慣が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もシラバスを活用し、事前に評価の方法を説明し、適切に評価を行う。 ・本時の目標に対する振り返りを行う。 ・タブレットなど、ICT機器の研修を行い、授業においてICT機器の利用率を高めていく。 ・公開授業における参観者数の増加につながるための工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末学校評価アンケートの結果から、1年前と比較してもほとんどの項目で授業改善に繋がる項目が上昇している。授業研究を大切にする学校や教職員の姿勢が要因として評価できる。 ・本時の目標をただ提示しているだけの教科もあるように感じる。生徒にとって具体的な目標であるよう改善が必要である。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機や電子黒板などのICT機器を活用して、授業のユニバーサルデザイン化を図る ・コグトレを週に1回導入し、集中力や認知力の向上を目指す ・1分間スピーチの発表会を学年を越えて実施する ・図書館まつりなどの読書量向上にむけたイベントを周知徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を85%以上に維持する。 ・教員、生徒共にコグトレに慣れ定着させる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力を高める取り組みにおける評価項目で85%以上の評価を維持することができた。 ・他学年と合同でスピーチ大会を開催し、上級学年のスピーチを聴くことで表現力を高めることができた。 ・スピーチ大会で培った表現力を授業などで活かす場を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で少人数のグループワークなどの活動を引き続き積極的に取り組む。 ・生徒が聞き手にとって分かりやすい説明が出来るように授業での発問や活動を工夫する。 ・オープンスクールで生徒が発表したり、話し合ったりする授業を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個々に授業においてペア学習やグループワークを取り入れ、アクティブ・ラーニングが成立している。 ・1分間スピーチを定着して取り組んでいることは評価できるが、今後は思考力・判断力を高める取り組みが必要である。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを有効活用する。 ・宿題などを通して、自主学習をする習慣を身につけさせる。 ・携帯電話やスマートフォンなどを所持することのメリットやデメリット、家庭内でのルールづくりの重要性などを、小中の連携により、共通認識を図り、家庭に促す。 ・目標やねらいを明確にし、振り返りを取り入れた授業力向上に努める。 ・週末課題を毎週設定し、未提出者には学習優先の日を有効に活用するよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が65%以上になる。 ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、「約束を決めている」と回答した割合を85%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「積極的に発表しようとしている」という項目では、前年度は62.1%から57.4%に減少した。原因としては「授業が分かりやすい」と自信を持って答えられる生徒が20%であり、「学習について分からないことがあれば先生に質問できる」と答えた生徒は28%にとどまったことが考えられる。昨年度は一旦若干の改善が見られたものの、今年度は再び課題が浮き彫りとなり、一昨年と同様の結果となってしまっている。 ・携帯やスマートフォンに関して「約束を決めている」という回答は86.4%であり、目標を達成できているが、継続して正しい使い方と呼びかける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をあまり理解できていない生徒や授業中に質問できない生徒に対して、「学習優先の日」や定期考査前の学習会を活用し、フォローを行う。具体的には、個別対応ができるような形態をとり、生徒が質問しやすい環境づくりに務める。 ・外部から講師を招き、携帯やスマートフォンを所持することのメリットやリスク等を認識させるとともに、情報モラルの定着に努める。また保護者向けの講演会や懇談会での啓発を行い、学校と家庭が一体となった情報教育を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を楽しいと思わせる指導法については再検討が必要である。生徒の学ぶ背景として家庭との連携が見られ、学習意欲の向上が見受けられるなど着実な成果が認められる。

豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員朝礼時に職員間で情報交換を行い、その日の生徒指導に生かす。 ・小学校に出向き、英語の出前授業を行う。 ・Q-Uを実施し、具体的対応を考え、学級経営に生かす。 ・道徳ローテーション授業の実施 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組みを取り入れる。 ・きょうだい学級での取り組みでは、合唱練習や生徒会活動を通して、上級生が下級生の見本となり、縦のつながりを実感できる取り組みを行う。 ・1分間スピーチを取り入れ、人前で発表できる機会を設ける。 ・小中連携の研修などで、児童生徒の情報について共有する。 ・教育相談週間をもうけ、生徒の実態把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートにおいて「自分に自信を持って行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」について、85%を上回る。 ・保護者の回答で「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることができる」について85%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分に自信をもって行動できる」の問いに対して生徒の結果が87.8%から88.6%に増え、少しずつであるが向上が見られた。また、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている。」については、95.5%が高く記入しており、同様に成果が出ている。 ・一方で、生徒の「私は家で役立つ仕事をしている」の項目が66.2%から67.4%に上昇しているものの、まだ7割には達していないため、継続して連携が必要である。 ・相談を受けた生徒には呼びかけを継続して行うことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間スピーチを行う以上、手立てを十分に徹底する必要がある。3学年が連携を図り、3年間のステップで成長できるような内容の検討が不可欠である。また、生徒が目標とできるような手本の提示をすべきであり、今後も継続して課題として取り組む。 ・体育大会や合唱コンクールなどの行事を通じて、自己肯定感を養える生徒が多い。それを意識した取り組みや声かけを行うよう職員が徹底する。 ・成功体験が自尊心に繋がることから、授業中にそういった場面を意識的に設定していく。成功するにはどのような努力が必要なのか、生徒が理解し実行できるように説明していく。 ・家庭での居場所づくりという意味でも、家族の一員としての役割を作れるよう、生徒自身だけでなく、家庭にも呼びかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として「きょうだい学級」で縦のつながりを取り入れた実践は、生徒の自尊感情を育むのに成果が見られる。3年間というスパンで生徒の成長を見守る考えが方が浸透すれば、職員間の連携も深まる。 ・教員一人ひとりの姿勢が生徒を大切に、人間的愛情をベースにした指導であると概観される。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、教育相談週間をもうけ、生徒の声に耳を傾ける。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uのアンケートの結果を活用し、学級運営に生かす。 ・ニコちゃんマークアンケート、学校生活アンケート、いじめ・体罰調査アンケートを行い、早期に実態把握を行う。 ・いじめ問題に関する道徳教材を使い、生徒がいじめ問題について深く考える時間をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合を85%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートに関して、生徒アンケートは全体で95.5%となり目標を上回った。また、保護者アンケートにおいて、全体では89.8%となり、目標を上回った。この結果より、一定の指導の効果を得ることができた。取り組みが形骸化しないように毎年の見直しをきちんと行い、定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、いじめ問題に関する情報を発信し、いじめ防止の啓発を行う。 ・学年会でQ-Uの結果分析や対応方法の検討を行い、研修会の機会を設けて、学年・学級経営に活かす。その際、要支援群に入っている生徒については職員会議などを通し、学校全体に情報の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、教育相談週間を設定し生徒の声や心情に注意して対応している。またアンケート調査で注意深く生徒の姿を追いかけしている。心情面と調査によって注意喚起する姿勢は高く評価できる。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理や啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりを活用し、健康の保持増進に関心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の「早寝早起き朝食を摂るなど規則正しい生活を心がける」の評価を90%以上にする。 ・保護者における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を85%以上にする。 ・生徒における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の「早寝・早起き、規則正しい生活を心がけている」の割合が87%と目標の90%に少し届かなかった。 ・保体委員会を活用し、早寝早起き朝ご飯の規則正しい生活を呼びかけるポスターを作成したことで、生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がけている」の割合が85%以上を維持できた。 ・保護者、生徒共に、保健だよりの認識は90%以上を維持できた。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者を掲示することで、生徒の意欲を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの認識は保護者生徒ともに高いので、継続して健康保持増進について啓発する。さらに、早寝早起き朝ご飯の重要性についても呼びかける。 ・学年集会や、全校集会などで健康の保持増進を意識づける。 ・月ごとの委員会活動等を活用し、健康の保持増進についての啓発を行う。 ・担任に加え、部活動においても個々への呼びかけを意識して行うことで、「早寝早起き朝ご飯」の意識付けを行う。 ・保健体育の授業では、運動と食事、睡眠の重要性を理解させ、実践させる意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上については、学校行事や日々の生活等で呼びかけや啓発を促している。また基本的生活習慣のあり方について、的確な指導がなされている。それらのことから指導の効果が認められる。 ・食育の大切さを保護者を含め指導することが必要である。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に学校情報を発信する。 PTA活動と協力して取り組む。 信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。 土曜オープンスクールには、校区内の小3～小6の児童や保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。 1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ホームページや学校だより、学年だよりなどの内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。 緊急時の連絡をホームページとメールを使って発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信を継続する。時々、ホームページにアクセスする家庭50%以上を目標にする。 地域と学校との間で双方向の活動が行われている状況を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページにアクセスした家庭は約51%となり、目標の50%以上を達成している。 ホームページは適宜更新している。 学校だよりや学年だよりなどの連絡文書も、約78.5%の家庭がよく読むと回答している。 約85.6%の家庭が家庭、学校、地域の連携が適切に行われていたと感じていた。 学校補導連絡会で授業公開を同時に行い、地域の方も授業見学している。 教職員が校内教育活動に専念できるよう、親が我が子の行動に責任をもって子育てに励むPTAシャキット運動を粘り強く継続している。職員とPTA役員の協力体制は大変良好である。 朝読書において、ボランティアによる読み聞かせを行った。 メール配信により緊急時の連絡が即時に行えるようになった。 夏祭りのお手伝いや地域の清掃活動などに部活動単位でボランティアとして参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を発信するプリント類などは内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう継続して指導する。 緊急時の連絡がホームページにアップされていることを学年通信などで周知する。 全家庭が緊急メールを受信できるよう保護者にメール登録してもらおう引き続きお願いする。 生徒会や部活動の枠を超えて、他の生徒も地域活動に意欲的に参加できるよう、ボランティア活動への参加をよびかける。 地域の方に土曜学習や放課後学習への協力者登録を進める。 オープンスクールを校区内の小学校3～6年の親子対象に小学校を通じて案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校から保護者への密な連絡と多様な学校開放をととして教職員と保護者との教育体制や信頼関係が構築されている。アンケート結果からも良好な関係で学校運営がなされている。 学校の情報発信は良好であるがホームページは今後も楽しくアクセスしやすいよう要継続願う。
-------------	-------------	---	---	--	---	---	--	--

次年度に向けた重点的な改善点

学力の向上については本年度高評価であるが、次期学習指導要領実施に向けた授業改善やタブレットの導入に伴う、教員一人ひとりの授業力向上や意識改革が必至となる。現在継続して取り組んでいる全教員による授業公開や年2回の授業研究会も恒常化し、形骸化することなく目的を明確にすることで、取り組み強化につなげていく。

また、コミュニティスクールの指定を受け2年が経過し、学校の抱える課題を学校運営協議会で共有することができた。今後はその課題解決に向けPDCAサイクルを繰り返す上でも、学校運営協議会委員と教職員が一層コミュニケーションを図っていく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った